

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和3年第30週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和3年第30週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和3年第30週（令和3年7月26日から令和3年8月1日まで）

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）RSウイルス感染症 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.49人と前週（3.51人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.41人と前週（2.46人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.49人と前週（0.43人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

今週のトピックス

“新型コロナウイルス感染症～2週連続過去最多を更新～”について取り上げました。

川崎市における令和3年第30週（7月26日～8月1日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は2800件と、前週の1201件から2倍以上に増加し、2週連続で過去最多を更新しました。

令和3年7月以降の状況を、第4波の初期（令和3年4月及び5月）と比較すると、20～50歳代の報告数の割合は74.0%から81.3%と増加し、特に20歳代が34.1%と最多でした。一方、ワクチン接種が進んでいる60歳代以上の割合は14.2%から4.7%と、大幅に減少しました。

ワクチン未接種で、基礎疾患がある方や中高年の方は重症化するリスクが高いため、予防対策の徹底を心がけましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

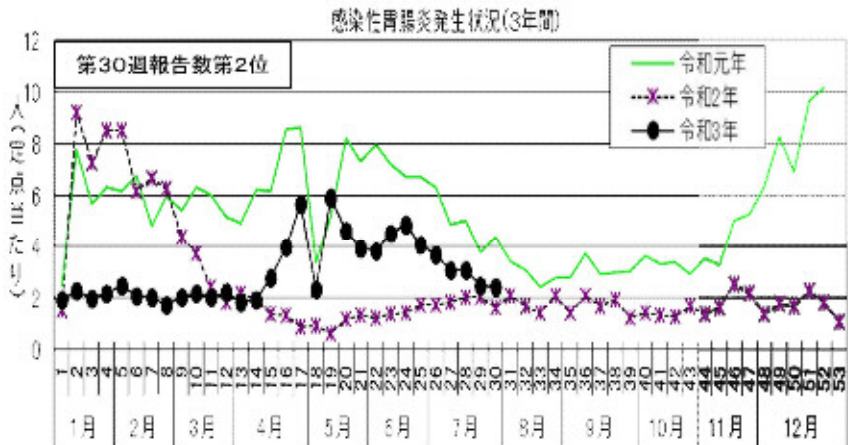
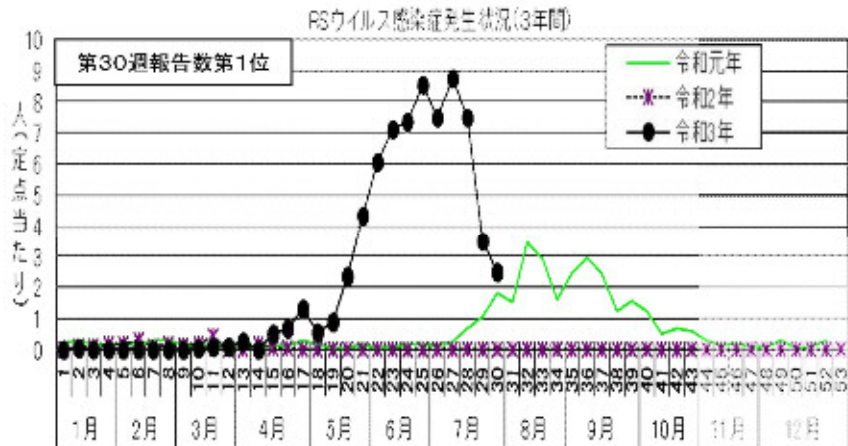
連絡先 川崎市健康福祉局保健所感染症対策課 小泉
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年7月26日（月）～令和3年8月1日（日）〔令和3年第30週〕の感染症発生状況

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) RSウイルス感染症 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.49人と前週(3.51人)から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.41人と前週(2.46人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.49人と前週(0.43人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



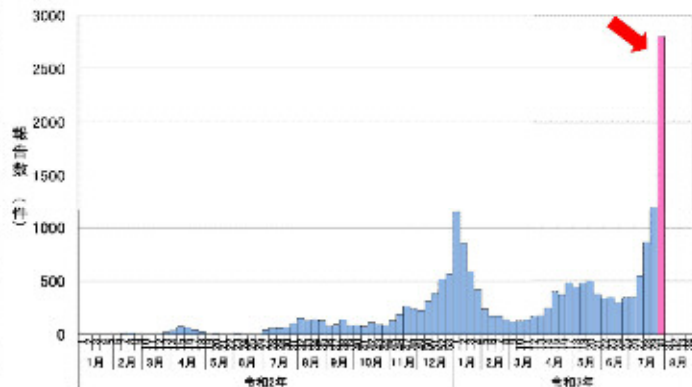
新型コロナウイルス感染症～2週連続過去最多を更新～

川崎市における令和3年第30週(7月26日～8月1日)の新型コロナウイルス感染症の報告数は2800件と、前週の1201件から2倍以上に増加し、2週連続で過去最多を更新しました。

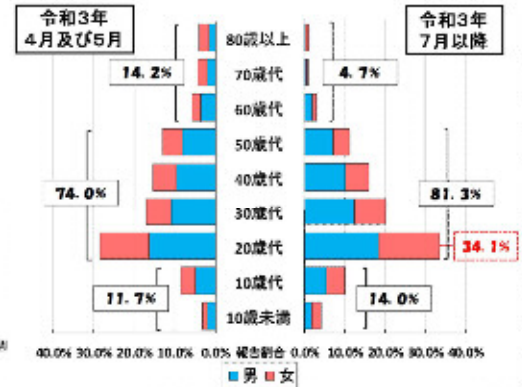
令和3年7月以降の状況を、第4波の初期(令和3年4月及び5月)と比較すると、20～50歳代の報告数の割合は74.0%から81.3%と増加し、特に20歳代が34.1%と最多でした。一方、ワクチン接種が進んでいる60歳以上の割合は14.2%から4.7%と、大幅に減少しました。

ワクチン未接種で、基礎疾患がある方や中高年の方は重症化するリスクが高いため、予防対策の徹底を心がけましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況(令和2年第1週～令和3年第30週)



川崎市における新型コロナウイルス感染症の年齢階級別性別発生状況の比較



令和3年8月3日9時時点のPCR-SYSデータより作成